

宮柁二記念館だより

2017.1.31

第 45 号

発行 宮柁二記念館

TEL・FAX

025-794-3800



宮柁二記念館外観（平成28年12月）

皆さまからの支えで

全国的には度重なる台風被害が報道されるなか、昨年の新潟の米の作況指数は一〇八の豊作と発表されました。

柁二没後三十年にあたる今回の企画展のテーマは「コスモスにつどう歌人たち」。三月の運営委員会に於いて最終決定、その後、限られた期間のなかでリスト作成から資料提供の依頼等々：多忙を極める先生方には大変ご迷惑をおかけしてしまったことを反省する一方で、この記念館のためにご協力いただけたことに深く感謝しあげたいと存じます。

昨年は地域の方の協力の下、展示室前のエントランスを利用しての絵画展を開催することができました。

また、ジュニアへの短歌普及については、はじめに高校からオファーが有り対応することとなり、これまで小中学校に留まっていたところから一歩踏み出すこととなりました。

施設開館から四半世紀が経とうとしている中で、ご遺族からはおりにふれ助言をいただくとともに、貴重な資料の提供が続いておりますこととあらためて御礼を申し上げます。

新潟・魚沼はいよいよ厳しい雪の季節を迎えることとなります。冒頭でも触れましたが、昨年各地での災害発生が伝えられました。

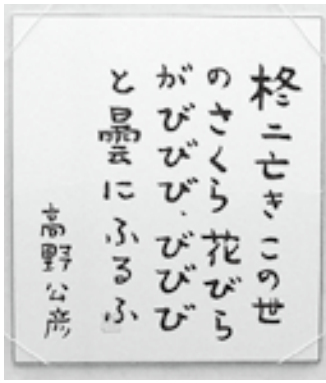
新年を迎え、皆さまそれぞれが過ぎた一年を顧みるとともに、新しい年が皆様にとって良い年となるよう御祈念申し上げます。

宮柊二没後三十周年記念

「コスモスにつどう歌人たち」展

宮柊二を語るうえで欠かすことのできないコスモス短歌会。コスモス歌人たちが師・宮柊二を詠んだ短歌作品の一部を紹介します。

平成二十八年は、宮柊二が逝去してから三十年目の節目の年を迎えることとなりました。歌人・宮柊二を語るうえで欠かすことのできない業績は、コスモス短歌会です。今回は「コスモスにつどう歌人たち」として、現在歌壇で活躍中の柊二と親交の深かったコスモス歌人二十三名の方から師・宮柊二を詠んだ短歌作品の直筆色紙をいただき展示しております。また、色紙をお寄せいただいた方の歌集等も展示しています。

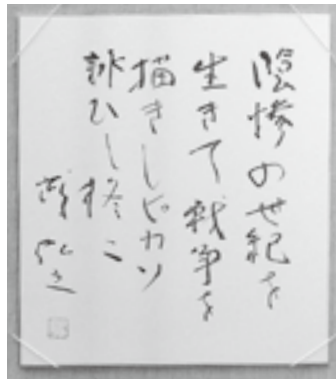


柊二亡きこの世のさくら花びらがびびび、びびびと曇にふるふ

高野公彦 (たかの きみひこ)

《略歴》

昭和十六年愛媛県生れ。現在、「コスモス」選者・編集人。



陰惨の世紀を生きて戦争を描きしピカソ詠ひし柊二

武田弘之 (たけだ ひろゆき)

《略歴》

昭和七年愛知県生れ。元「コスモス」選者。



展示している歌人が師・宮柊二に寄せる想いを詠んだ歌：皆様からご鑑賞いただきたくないと考えております。

なお、色紙を掲載できなかった歌人は次のとおりです。

奥村晃作、影山一男、桑原正紀、木畑紀子、小島ゆかり、古屋祥子、仙田善雄、橘芳園、田宮朋子、仲宗角、日影康子、日野原典子、福士りか、摩尼久晴、水島晴子、宮里信輝、森重香代子。(敬称略)

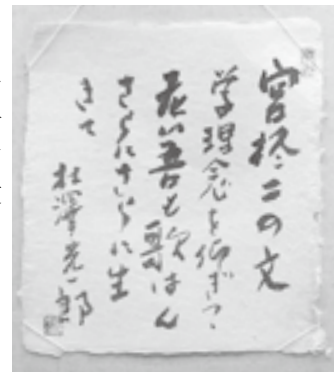


塩の道案内を
しつ、山の湯に
先生の背を
流しつわれは

松田護夫 (まつだ もりお)

《略歴》

昭和七年新潟県生れ。コスモス賞受賞、元選者、歌集に『市塵』。



宮柊二の文学理念を仰ぎつ、
老い吾も歌はんに
さらにさらに生きて

杜澤光一郎 (とざわ こういちろう)

《略歴》

昭和十一年埼玉県生れ。日本歌人クラブ参与、「コスモス」選者。

近寄りがたく
殺しみ深く
先生はしづかにましき
われらの上に

狩野一男

近寄りがたく
親しみ深く
先生はしづかにましき
われらの上に

狩野一男 (かのう かずお)

《略歴》
昭和二十六年宮城県生れ。現在「コスモス」
選者・編集委員。

先生の眼鏡は
ありぬ昆虫の
肢のごとくに折り
たたまれて

康行

岡崎康行 (おかざき やすゆき)

《略歴》
昭和十五年山形県生れ。現在、「コスモス」
選者。



「コスモス」創刊号



左から『白秋陶像』、『緑金の森』『純黄』

今回の展示には、宮柊二の歌集も展示してあり、その中には英子夫人によって発行された歌集もあります。展示してある歌集は、第一歌集『群鶏』から『冬至集』までのほか、『純黄』、『緑金の森』、『白秋陶像』です。なお、『純黄』は英子夫人による特別な装飾が施されており、外装は素晴らしいものとなっています。

また、コスモス創刊号や記念号をコスモス編集部の写真と共に展示しておりますので合わせてご覧いただきたいと存じます。

オープニングセレモニーより

「柊二のおもいで」

五月十四日には、「コスモスにつどう歌人たち」展のオープニングセレモニーを開催しました。当日は、テープカット、市長あいさつに続き、新潟県小千谷市在住の山本清さんから「柊二のおもいで」と題して、記念講演をいただきました。

山本先生は、胸にしまわれていた宮柊二の思い出を、宮柊二の言葉や中山礼治氏（故）との思い出を交えながら話されました。

話されたエピソードからは当時の宮柊二の姿や人柄が思い起こされ、非常に貴重な講演でした。

なお、「コスモスにつどう歌人たち」展は平成二十九年三月末まで開催する予定です。まだご覧になっていない方は、ぜひお立ち寄りください。



山本先生からは、深い内容のお話をいただきました。

第二十二回宮柁二記念館全国短歌大会

応募数は一万二千首以上

今回で第二十二回目となる短歌大会は、十一月十二日に表彰式を行いました。応募状況は、一般の部で九六六首、ジュニアの部で、一万一千首を超える数となりました。

近年、短歌に親しむ子どもたちが増えていくことを実感しています。これは、伝統的な文芸である短歌の

学習に、さまざまな学校が取り組まれているためだと思います。多感な時期を過ごす子どもたちにとっては、指を折りながら短歌をつくることは貴重な経験になっていることでしょう。

選歌をお願いしました久我田鶴子先生と桑原正紀先生には大変な難儀をおかけいたしました。作品数が多くなつた分、優れた歌も増えていると期待しています。

第22回 宮柁二記念館全国短歌大会 表彰式

- ◎日時 平成28年11月12日(出) 12:30~15:00
- ◎会場 魚沼市堀之内公民館 大ホール
宮柁二記念館隣り
- ◎内容 ①選者講評
②表彰式
- ◎交通
〔車〕 関越自動車道 堀之内IC 3分
〔鉄道〕 上越線 越後堀之内駅 車で3分・徒歩15分
- ◎その他
記念館において特別賞受賞者の短歌色紙を展示しました。

短歌大会 応募状況

区分	応募作品数
一般の部	966首
ジュニアの部	11,695首
(小学生)	2,848首
(中学生)	3,406首
(高校生)	5,441首
総計	12,661首

短歌大会 選者ご紹介

くわ はら まさ き 桑原正紀さん

1948年広島県生まれ。

1973年、コスモス短歌会入会。

1976年、コスモス「桐の花賞」を受賞。1985年、同人誌『棧橋』を高野公彦らと創刊。1990年、コスモス賞およびコスモス評論家賞を受賞。2009年、短歌研究賞を受賞。現在、「コスモス」選者、編集委員。

歌集、歌書に『一天紺』『妻へ。先年待たむ』『天意』『歌の光芒』『宮英子の歌』『花西行』などがある。



く が た づ こ 久我田鶴子さん

1955年、千葉県生まれ。

大学在学中に作歌をはじめ、1977年「地中海社」に入社。

小野茂樹の作った羊グループに所属。30代より「地中海」編集委員。

大学卒業後30年間、高校教諭として勤務した。定年まで8年を残して職を辞し、現在、「地中海」編集人、現代歌人協会理事。

歌集に『転生前夜』『島恋行』『雨を見上げる』『菜種梅雨』など8冊、歌書に『雲の製法-小野茂樹ノート』がある。



平成28年度 前期事業

年度の前半が終わり、今年度前半の事業等を振り返ってみました。その一部をご紹介します。

宮柵二講座「私記録詠のころ」



7月24日、歌人の岡崎康行先生を講師に迎え「私記録詠のころ」と題して宮柵二講座を開催しました。私記録詠五十首が発表された昭和36年頃について、時代背景などをまじえて詳しく説明していただきました。

中林一夫絵画展



8月6日から21日まで、地域の絵画サークル「白象会」で活躍中の堀之内在住、中林一夫さんの絵画展を開催しました。絵画展期間中には大勢の方から来館いただきました。



滝澤治絵画展



9月10日から25日まで、地域の絵画サークル「白象会」で活躍中の堀之内在住、滝澤治さんの絵画展を開催しました。迫力のある大判の絵画を展示いただきましたが、スペースが限られておりご不便をおかけいたしました。

東京短歌会魚沼をめぐる旅



6月16日、高野公彦先生をはじめコスモス東京短歌会のご一行10名をお迎えいたしました。企画展を鑑賞のあと、堀之内やなで昼食、市内の歌碑や宮林墓所などゆかりの地を案内させていただきました。

新資料紹介

今年度もこれまでに貴重な資料をお預かりすることができました。厚く感謝申し上げます。今後も大切に保存してまいります。

礼服一式（寄託）

宮布由樹様から、宮柵二の礼服一式を寄託いただきました。こちらの礼服は昭和52年、第33回日本芸術院賞の受賞式、歌会始をはじめ諸行事において着用されていたとのこと。



宮柵二の眼鏡（寄託）



宮布由樹様から、宮柵二愛用の眼鏡を寄託いただきました。

宮柁二の書齋再現コーナー
(第二展示室)



宮柁二記念館収蔵資料紹介 No. 45

記念館の第二展示室内には、柁二の書齋を再現したコーナーがあり、柁二が使用した椅子や湯のみ、杖などが展示してあります。柁二の愛用した品々、往時の歌人としての柁二の「活動の本拠地」をうかがうことができます。

「歌びととして、父として」

当館で販売しております

二〇一二年一〇月、宮柁二生誕百年記念コスモス全国大会がANAクラウンプラザホテル新潟で開催されました。そのときの片柳草生さんの講演記録をコスモス短歌会新潟県支部が製作し、二〇一六年七月に発行しました。

当館にも所蔵し、一冊三百円で販売しておりますので、ぜひお手にとってご覧ください。



「歌びととして、父として」
講演 片柳 草生

「友の会」からのお知らせ

宮柁二記念館では、会員を募集しています。年会費は一、〇〇〇円です。
くわしくは、宮柁二記念館へお問い合わせください。

宮柁二記念館だより 第45号

発行 2017. 1. 31

問合せ 宮柁二記念館 (〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内117-6) TEL・FAX 025-794-3800

メール miya-museum@city.uonuma.niigata.jp ホームページ <http://www.city.uonuma.niigata.jp/miyashuji>